

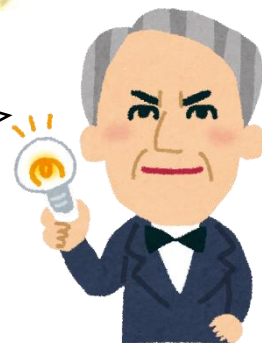
# 『だれかの笑顔のために』

## 夏休みを有意義に過ごしましょう！

子どもたちにとって楽しい夏休みがはじまります。土日祝日も含めれば39日間となります。宿題もあると思いますが、せっかくの夏休みです。自分を成長させるために、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思っています。

ある人のことばです。さて、だれの言葉でしょう？考えてみてください。

「学校は私に合わなかった。いつもクラスで一番できの悪い落ちこぼれの生徒だった。小学校には、わずか3か月しか通わなかった。父はわたしを馬鹿だと決め込んでいた。12歳のころ、ある事故で耳が聞こえなくなり、それ以来小鳥のさえずる声を聞いたことがない。」



こたえは、蓄音機(1877年)、白熱電球(1880年)、映写機(1889年)の三大発明をしたトーマス・エジソンです。

では、次の言葉を言ったのは、どんな人でしょう？

「小学校に入学したが成績はパツとしなかった。注意散漫で教室の授業についてこれないと先生によく言われた。絵を描くのは好きだったが、ほめられたことは一度もない」

こたえは、ディズニーランドの生みの親であるウォルト・ディズニーです。



二人の言葉を紹介します。

トーマス・エジソン：「天才とは、1%のひらめきと、99%の汗である。」

ウォルト・ディズニー：「夢見ることができれば、それは実現できる。」

## 皆さんは無限の可能性を持っています。

しかし、人は過去の経験や体験によって、「自分はできない」「自分のレベルはこれくらいだ」「これ以上は無理だ」と思い込んで、限界を勝手に作ってしまうのだそうです。人間だけでなく、動物もまた思い込みで可能性にフタをします。

サーカスの象の話です。サーカスの象は子どものころ、脚に鎖をつけて逃げないように動けなくされます。子どもの象は何度も鎖を引っ張って逃げ出そうとしますが、動けません。そのうち、子どもの象は「鎖＝動けない」と思い込み、鎖をつけられると引っ張ることをやめてしまうのだそうです。こうやって育てられた象は、大きくなっても鎖をつけられると動けないと思い込んでいるので、おとなしくなるのです。鎖は土に軽く打ち込んでいるだけなので、大人の象であれば簡単に外すことができるのに、動こうとしなくなるのです。

本当はできる力があるのに、できないと思い込んでしまう。人間も同じです。本当はできる力があるのに、過去の経験や体験によって、できないと思い込んでしまうのです。このように、人間は、良くも悪くも、思い込みを実現する力を持っています。だからこそ、運動でも勉強でも、「絶対できる」と自分を信じるのが大切なのです。トーマス・エジソンもウォルト・ディズニーも夢をもって、自分を信じて努力を続けられたのだと思います。この夏休み、自分の力を信じて、何かに挑戦してくれることを期待しています。

